

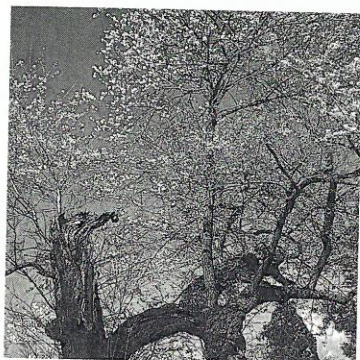
楽しく美しい まちづくり通信... 81

～宝のある風景～

往く春を楽しむ

小学唱歌に「夏も近づくと歌われてきた「八十八夜」は、この広報が皆様のお手元に届く五月初旬の頃であり、それからすぐに、暦の上では「立夏」がやってきます。

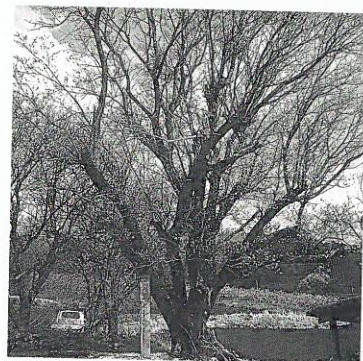
この頃にかけて二戸市はまさに、百花繚乱の季節であり、梅・コブシから桃へ、そして桜へと、瑞々しい若葉に先んじて、咲いて散り行く花々の美しさは、北国に住む者だけが味わえる醍醐味です。



万葉の時代から、見た目の美しさより香りが尊ばれる梅の花。梅の太木や老木は市内に多くはありませんが、夏間木地区にある梅は、幹回りが3mを超える巨木で、馥郁たるその香りにはゆかしさが感じられます。

この夏間木地区から程近い仁左平の「狐森のキタコブシ」は、早春の山野を彩る白や淡紅色の大きな花を咲かせ、見る者の心を愛でてくれます。

宝のある風景―その1

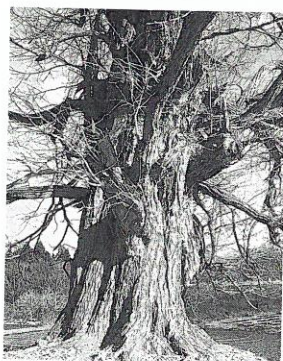


宝のある風景―その2

二戸市には、市の天然記念物に指定された三本のエドヒガンザクラの古木があります。

この時期、身近に咲く花として、福岡の愛宕神社と下斗米の聖福院の桜をご覧いただきたいと思っています。

併せて、長い年月を費やし成長してきた夏間木や奥山のエドヒガンザクラには、見る者を魅了する美しさがあり、地元の宝として守られています。



これらの巨樹・巨木を通して二戸市からの情報発信を目指し、この秋には、市制施行三十周年記念事業の一つとして、郷土の自然環境の保全と自然に対する認識の高揚を目的に、「第十四回巨木を語ろう全国フォーラム」が開催されます。

私たちの身近な自然を見直し、二戸市に生まれたこと、暮らすことに誇りと楽しさが見い出せるフォーラムになるよう開催準備が進められています。

みんなが宝・みんなの宝

楽しく美しいまちづくり 推進委員会活動報告会

楽しく美しいまちづくり推進委員会は、3月17日、シビックセンターで活動報告会を行いました。

ひめほたるの会による童謡で幕を開け、開会行事が行われた後、両親のふる里が二戸市で、自身も少年時代を二戸市で過ごした麗澤大学の欠端實教授が、「多様化時代の穀文化」と題して講話を行いました。

委員の活動報告の後、市内最高齢の玉川スマさんや、4月から小学生の戸館泰山くん、緑風荘主人の五日市和彦さんら9人が、こたつを囲んで二戸市の宝について語り合いました。



「こたつ談義」で語り合う出演者